



被災者の皆様に

三月十一日の大震災で、当園のご使用家にも被害を受けた方が多くいます。そんな被害を受けた皆様に、励ましのメッセージをお届けします。このメッセージが、どうか少しでも皆様の希望の力になりますように。
(みやぎ霊園)

ああ なんといい
ことでしょう
テレビを見ながら
唯 手をあわすばかりです
皆様の心の中は
今も余震がきて
傷痕がさらに
深くなっていると思います
その傷痕に
薬を塗ってあげたい
人間誰しもの気持です
私も出来ることは
ないだろうか? 考えます
もうすぐ百歳になる私
天国に行く日も
近いでしょう

その時は 陽射しとなり
そよ風になって
皆様を応援します

これから 辛い日々が
続くでしょうが
朝はかならず やってきます
くじけないで!



飛鳥新社刊『百歳』(著者・柴田トヨ)より引用
イラスト・筆跡はイメージです

柴田トヨ プロフィール

1911(明治44)年6月26日、栃木市に生まれる。90歳を過ぎてから詩作を始める。2010年3月に初詩集『くじけないで』を出版し、150万部を超えるベストセラーになる。同書は、韓国、台湾、オランダで翻訳出版され、イタリア、スペインでも刊行予定。2011年9月に第2詩集『百歳』を出版。

発行: 財団法人みやぎ霊園
住所: 〒989-3121 仙台市青葉区郷六字大森 2-1
電話: (022) 226-2440 Fax: (022) 226-3238
URL <http://www.miyagi-reien.or.jp/>
Mail: aoba@miyagi-reien.or.jp

霊園だより



2011.11.Vol.14



トピックス

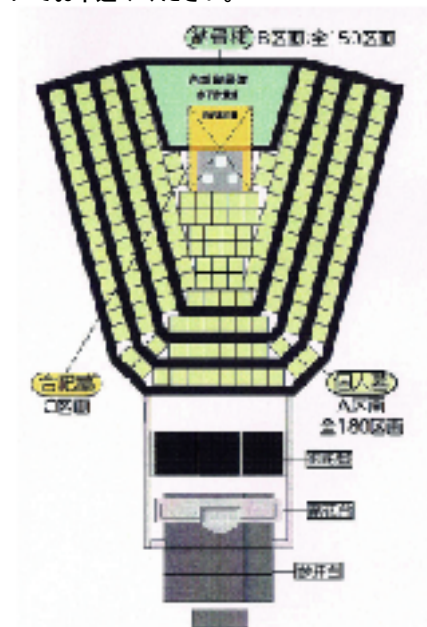


永代供養墓「やすらぎの碑」が完成しました。

お墓の跡継ぎに不安がある、管理する人がなく無縁墳墓になった場合など、当園が後々まで供養を続けてまいります。1区画お一人様でご利用でき、宗旨宗派も問いません。

※管理料はありません。また、墓地継承はありません。

資料ご希望の方は、お電話または同封の葉書にてお申込みください。



A区画：個人墓カロート式

使用料35万円【全180区画】

B区画：納骨壇式

使用料15万円【全150区画】

ただ今、申込受付中です。



平成23年6月25日に開催された竣工式の様子

各種手続きについて



●住所変更や永代使用許可証の紛失

住所が変更になった方、永代使用許可書を紛失した方は管理事務所までご一報ください。

●名義変更

名義を変更される場合は、永代使用許可証、名義変更申請書、戸籍謄本（新旧名義人の関係がわかるもの）が必要です。

●各種証明書発行

納骨・改葬・分骨など必要に応じて各種証明書を発行いたしますので、管理事務所にお申し出ください。

●納骨手続き

納骨に際しては、管理事務所への届出が必要です。事前に日時をご連絡ください。

●墓地の返還

お引越しや改葬等、諸事情で当園の墓地が不要になった場合は、墓地永代使用权をお返しください。墓地返還の手続きが必要です。詳しくは管理事務所にお問い合わせください。

連絡先 管理事務所 (022) 226-2440

僧侶のご紹介

ご納骨やご法要などに際して、ご僧侶を紹介いたします。管理事務所へご相談ください。

みやぎ霊園の法事室が新しくなりました。

納骨法要・回忌法要など皆様のご都合にあわせてご利用ください。

現在、法事室の仏壇裏にお骨上げした被災ご使用家様のお骨を安置しております。



法事室



お客様控室



和室

要予約 Tel 022-226-2440

料金 525円/人 (30名様まで)

*彼岸・お盆の繁忙期はご利用できません。

■提携している周辺の法宴施設

料理仕出し

一燈明 みぶな 0120-155-327
味の金魂 022-277-1041

*お申込みの際にみやぎ霊園使用家とお伝えください。



震災復旧レポート

3月11日の大震災で当園も大きな被害を受け、ご使用家の皆様には大変ご迷惑をかけております。みやぎ霊園管理事務所では、震災直後から復旧工事に努めてまいりました。まだまだ完全復旧には至りませんが、当園のこれまでの取組みをご報告いたします。

震災以前よりも快適な墓参環境を整えられるよう復旧に努めてまいります。



擁壁改修工事

■二次被害の防止

倒れた墓石を放置することは、余震による二次被害の恐れがあるため、安全対策を第一に考え、墓石の取り外しや危険エリアのロープ規制などを行いました。その結果、震災発生から一人の怪我人もなく経過しました。また滑落しそうな墓石のズレを約150件修復しました。

■遺骨保全

地盤沈下や地割れが発生するなど被害が大きかったエリアでは、遺骨の流失を防ぐため、約150件のお骨上げを行いました。崩れかけた墓石や地割れなどの状況下で、職員の安全を確保しながらの作業でした。

■道路・駐車場の復旧

擁壁の崩落で車両入場規制をしていた道路は、復旧工事を迅速に行い、4月11日から入場規制を解除しました。また西16区駐車場などに発生した陥没も修復しました。

■水道設備の復旧

地下水道配管が至る所で断裂し、当初は水道もトイレも使用できない状態でしたが、仮設配管をつなぎ、お盆前には通水しました。工事業者の手配がつかない混乱時の中、職員の懸命な作業が続きました。

■雨水対策

地割れが発生したり、骨堂が露出した墓地には、シートで覆うなど応急処置を行いました。また地崩れで破壊された側溝を改修し、お盆前には排水設備が復旧しました。

■ご使用家様との面談

被害が大きい3区・5区を含むご使用家様に被災墓石の修復について個別の面談を続けております。墓地移転の提案などを行い、了承を得たご使用家様には修復工事を実施しております。



墓石取り外し



墓石ズレの修復



お骨上げ



道路復旧工事

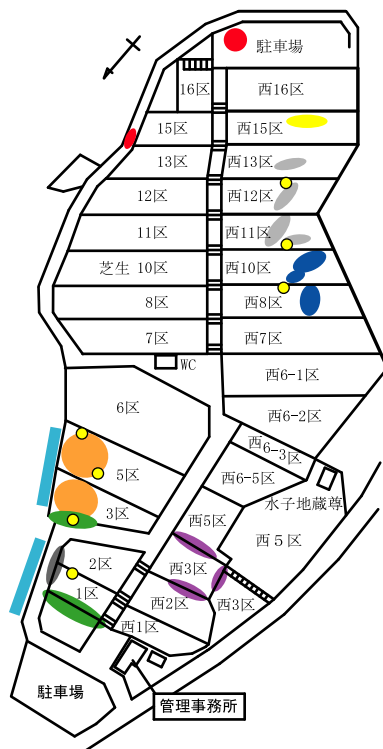


水道管工事



側溝改修工事

■復旧工事状況 (10月末現在)



- 凡例
- …路盤改修
 - …水平調整
 - …水平調整・地盤補修
 - …地盤補修・擁壁補修
 - …お骨上げ
 - …水道管工事
 - …擁壁崩壊対策
 - …擁壁亀裂補修
 - …側溝改修
 - …ボーリング調査

■今後の主な取組予定

当園の墓石工事協力店に秋彼岸後の時点で450件を超える多数の墓石修復工事の依頼があり、うち半数が施工に至っています。また地盤沈下による被害の大きいご使用家様は相当数にのぼります。この皆様については、被災状況に応じて個別に修復方法のご相談をし、施工に向けて取り組んでおります。

これまでに経験のない大きな被害のため、思うにまかせない進捗ではありますが、復旧に向けて尽力しております。お気づきの点がございましたら、管理事務所までご相談ください。

- ・東1区～東5区、西11区～西15区の傷んだ擁壁・通路の修復
- ・仮設水道配管の本工事
- ・3区、5区の墓石および地盤の改修工事
- ・水平調整の手法を用いた地盤沈下による墓石傾きの修復
- ・被災区画移転のため、新しい区画造成について、仙台市の担当局と協議を行っております。





～霊園に仙台ゆかりの人々をたずねて2～

加藤陸奥雄（1911～1997）

自然に触れるよろこびを生涯失わなかった生態学者

西大立目 祥子

加藤陸奥雄先生がお元気であれば、今年100歳になる。この大地震と大津波の深刻な被害をご覧になったら、何とおっしゃっただろう。「自然を甘く見ちゃいかんよ。人間の想像力をはるかに超えた存在なんだからな」。私には、生態学者として鋭い観察眼を自然に向け続けた先生のそんな言葉が聞こえるような気がする。

明治44年、白石の生まれ。幼少期に仙台に移られてからは、連坊小、旧制二高、東北帝大で学ばれ、長兄の多喜雄先生（化学）、次兄の愛雄先生（物理学）とともに東北大学教授として活躍された。昭和46年から6年間は東北大学学長を務められ、退官後は、初代の大学入試センター長や宮城県美術館長も歴任している。まさに学都仙台を代表する学者の一人だった。

多喜雄先生とともに仙台市科学館や仙台市野草園の設立に尽力されたことは前号にも記したが、仙台市が、公害が問題となっていた昭和40年代に全国に先駆け「杜の都の環境をつくる条例」や「広瀬川の清流を守る 条例」を制定し得たのは、自然環境の保全を考え続けた陸奥雄先生の存在があったからではないか、と推測する。

私は幸運にも、平成9年3月に亡くなられるまでの最後の1年間、月1回ご自宅にうかがって、長年の研究や自然への思いを拝聴する機会を得た。ある講演会で先生が「僕は仙台に育てられた」と話されるのを耳にし、仙台と自分自身とのかかわりをそんなふうに表現なさったことに俄然興味が湧いて、押しかけるようにドアをたたいたのである。

先生は気さくで、茶目っ気があって、人間的魅力にあふれていた。これだけの要職につきながらも、捕虫網を持って蝶を追いかけた少年の頃のナイーブな自然への興味や畏怖が、生涯を通して胸のうちに輝き続けていたのだと思う。大正時代から、中山や台原など戦後に団地開発された丘陵地に出かけ、尾根を上り谷を下り、地形を体に刻みつけながら蝶を探し歩いたという。仙台の市街地周辺に豊かに広がっていた広葉樹の森が、まるでゆりかごのように一人の昆虫生態学者を育てていくようすがイメージできた。このころの採集の成果は「仙台市でとれた蝶類」（1935年）としてまとめられている。これは仙台市内の蝶についての初めての本格的な調査である。

先生は上からの決断を下す際も、生態学者としての見識を忘れなかった。片平から川内へ東北大学が移転した際には、建物の設計変更をさせて敷地内の樹木を1本も伐らせず、扇坂周辺の雑木林も開発から守り抜いた。まちの中のどの自然をどんな状態で残さなければならないか、を知りつくしていたのだろう。

ひな祭りに、お手製のひな壇に毛氈を敷き、日本各地の郷土玩具を並べて楽しそうに職人さんたちの話をしてくださった姿も忘れがたい。

今年12月2日は、お世話になった何人かで、100回目の誕生祝いをして差し上げたいと思っている。



自宅2階には、こけしをはじめ長年の調査旅行で集めた郷土人形がぎっしりだった。1995年撮影。墓碑は西12区。

西大立目 祥子（にしおおたちめ・しょうこ）
フリーライター。地元学の視点で仙台のまちや広瀬川について執筆している。著書に『仙台まち歩き』（河北新報出版センター）。



みやぎ霊園ホームページ



うっしー日記

お知らせ

催事

ふれあいゼミナール

バックナンバー

事業報告・情報公開

少しずつですが、ホームページをリニューアルしています。ブログもあります。どうぞ、お立ち寄りください。

<http://www.miyagi-reien.or.jp/>

検索 みやぎ霊園